

ART300GA

表象文化演習－現代文化創造論－

岩川 ありさ

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文化を創造することは社会を見る新しい視座を獲得することです。1年間の演習を通じて、テレビやインターネットで見聞きしている現代社会の諸問題について考える力を養い、毎日、何気なく触れている、マンガ、ドラマ、アニメーション、映画、演劇、2.5次元ミュージカル、ファンアートなどの表象文化を批判的に検討する方法を学びます。1年間のテーマは、「自分をかたちづくるもの、社会をかたちづくるもの」です。様々な領域や興味関心を繋ぎながら、現在とは別様の文化を創造するための知識や技法を身につけます。

【到達目標】

- (1) 授業で学んだトピックについて、具体例をあげながら、表象分析が行える。
- (2) 論点を整理してディスカッションを行うことができる。
- (3) グループワークを通じて現代文化を創造するための具体的な展望を得る。

【授業の進め方と方法】

- (1) 演習形式で行います。
- (2) 春学期は、毎回の授業の前半に現代社会と表象文化を繋ぐレクチャーをし、授業後半に1～2名の担当者が論点を整理し、ディスカッションを行います。
- (3) 秋学期は、現代社会における様々なトピックに関する表象分析を行い、個人研究発表を行います。それをもとにして、グループワークを行い、現代文化の新たな展望について具体的な計画や構想をまとめます。
- (4) 双方向的なやりとりを重視するので、レクチャー中の質問やとりあげたいトピックや表象作品の提案も歓迎します。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ゼミ生の自己紹介、1年間の授業計画や運営について、グループ分け。また、現代社会における諸問題を表象文化を通して考えるための視座をいくつか提起します。
第2回	わたしをかたちづくる条件(1)	「鉄腕アトム」(1963)、「新世紀エヴァンゲリオン」(1995)、「おそ松さん」(2015)などのアニメーションを分析し、「わたし」という存在をかたちづくっているものは何かについて、普遍的な問いと時代による差異について考えます。
第3回	わたしをかたちづくる条件(2)	1980年代、1990年代の文化状況について漫画家の岡崎京子を通して紹介した後、映画「ヘルター スケルター」(2012)について分析し、美をめぐるイデオロギーと身体の問題について考えます。
第4回	わたしをかたちづくる条件(3)	「ホーホケキョ となりの山田くん」(1999)、「ハッシュ」(2001)、「サマーウォーズ」(2009)などの作品を分析し、家族の多様性について考えます。

第5回	他者に触れるということ(1)	「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」(アニメ版 2011、実写版 2013)、「心が叫びたがってるんだ。」(2015)など岡田磨里の脚本について分析し、他者に触れることの痛みやトラウマの問題について考えます。
第6回	他者に触れるということ(2)	「君の名は。」(2016)、「この世界の片隅に」(2016)など、2016年から2017年に多くの人が観た作品をとりあげて、時代的な背景を理解しながら、「共感」やジェンダーの問題について考えます。
第7回	他者に触れるということ(3)	吉野源三郎「君たちはどう生きるか」(1937)と羽賀翔一が漫画化した『漫画 君たちはどう生きるか』(2017)を通して、人が社会の中で生きていくことの意味について考えます。
第8回	社会の中で生きるということ(1)	岩崎航の詩集『点滴ボール 生き抜くという旗印』(2013)を通してケアという側面から社会と文化について考えます。
第9回	社会の中で生きるということ(2)	映画「わたしは、ダニエル・ブレイク」(2016)を通して社会保障とセーフティネットの仕組みについて考えます。
第10回	社会の中で生きるということ(3)	映画「わたしは、ダニエル・ブレイク」(2016)を通して社会保障とセーフティネットの仕組みについて考えます。
第11回	生命をめぐる倫理(1)	映画「ガタカ」(1997)を分析し、優生思想と生命倫理について考えます。
第12回	生命をめぐる倫理(2)	映画「ガタカ」(1997)を分析し、優生思想と生命倫理について考えます。
第13回	生命をめぐる倫理(3)	ハンセン病療養所に暮らした詩人塔和子の詩に沢知恵が曲をつけた「胸の泉に」をめぐるドキュメンタリーを紹介し、次の世代に記憶を伝える方法について考えます。
第14回	まとめ	まとめ。秋学期の授業計画、発表順、
秋学期		
回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	秋学期の授業計画、発表順、グループの確認、発表の仕方について
第2回	研究発表(1)	それぞれテーマを設定し、現代社会と表象文化に関連する個人発表を行います。
第3回	研究発表(2)	それぞれテーマを設定し、現代社会と表象文化に関連する個人発表を行います。
第4回	研究発表(3)	それぞれテーマを設定し、現代社会と表象文化に関連する個人発表を行います。
第5回	研究発表(4)	それぞれテーマを設定し、現代社会と表象文化に関連する個人発表を行います。
第6回	研究発表(5)	それぞれテーマを設定し、現代社会と表象文化に関連する個人発表を行います。
第7回	研究発表(6)	それぞれテーマを設定し、現代社会と表象文化に関連する個人発表を行います。
第8回	ラウンドテーブル	これまでの発表をもとにして、自由に意見交換をします。

管理 ID: 1806275
授業コード: C1108

- | | | |
|--------|-------------|--|
| 第 9 回 | グループワーク (1) | 個人研究を踏まえて、それぞれのグループが、現代社会における様々な問題について相関関係を整理し、表象文化との関わりについてまとめます。 |
| 第 10 回 | グループワーク (2) | 個人研究を踏まえて、それぞれのグループが、現代社会における様々な問題について相関関係を整理し、表象文化との関わりについてまとめます。 |
| 第 11 回 | 全体発表 (1) | グループでまとめた内容について発表し、フィードバックを行います。 |
| 第 12 回 | 全体発表 (2) | グループでまとめた内容について発表し、フィードバックを行います。 |
| 第 13 回 | ゲスト・スピーカー | 現代文化を創り出しているゲストを招き、対話します。 |
| 第 14 回 | まとめ | これまでの成果を発表し、期末レポートに向けてのフィードバックを行います。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・担当者は、必要な参考文献を調べた上で、議論を喚起する形で発表できるように準備する。

・受講者は、共通テキストを精確に読み、自分が気になった点については調べ、問題意識を持ちながら議論に参加できるようにすること。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

毎回の講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の期末レポート 35%、秋学期の期末レポート 35%、秋学期の個人発表とグループワーク 30%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より授業担当者変更のため昨年度のフィードバックはありません。